



### 老年病研究所附属病院の理念

1. 地域の人々の健康を守るための、研究と実践
2. 疾病の予防と治療に役立つ看護、介護の推進
3. 高齢社会における保健・医療・福祉のネットワーク作り

### 老年病研究所附属病院の基本方針

1. 最新医療の研究と実践
2. 質の高い安全な医療の提供
3. 多職種によるチーム医療の実践
4. 地域医療および社会への貢献
5. 職員教育の充実
6. 病院経営の安定

## アルツハイマー病の研究



認知症研究センター  
副センター長 瓦林 毅

昨年の5月に弘前大学脳神経内科学教室から移ってきました。弘前大学脳神経内科学教室の教授だった東海林幹夫先生のもと、認知症研究センターに勤務しております。弘前大学では、アルツハイマー病診断のバイオマーカー開発、治療法の開発を研究しておりました。引き続き当院でも認知症研究センターでその研究を続けております。

### アルツハイマー病バイオマーカーの開発

従来はアルツハイマー病の診断は死後に脳を顕微鏡で見ないと確定診断はできませんでした。私たちの研究グループは脳脊髄

液のアミロイドβ蛋白とタウというタンパク質を測定するとアルツハイマー病発症の何年も前からアルツハイマー病を診断できることを発見し、その研究を続けてきました。この研究は世界的に認められて、現在、脳脊髄液のタウは保険診療で調べることができるようになっています。ただし、脳脊髄液は背中から針を刺して採る必要があります、痛みもあるので患者さんの同意を得にくい現状です。そのため、血液中のバイオマーカーが世界中で研究されており、将来は血液を調べるだけでアルツハイマー病の診断ができるのではないかと期待されています。

我々はアメリカのワシントン大学との共同研究で血液中のニューロフィラメントライトチェーンの測定がアルツハイマー病の発症を16年も前から予測できることを示しました。現在も新たなバイオマーカーの開発中です。

次ページへ続く

## アルツハイマー病予防療法の開発

現在のアルツハイマー病治療薬は、症状をしばらくの間改善するだけで、病気の進行を遅くしたり、止めることはできません。病気の進行を遅くする薬は全世界で開発が行われていましたが、昨年になってアミロイドβ蛋白に対する抗体がアルツハイマー病の症状の悪化を抑えることや、脳にたまったアミロイドβ蛋白を減らすことが大規模臨床試験で初めて示されました。これが治療薬として認められるかが注目されています。ただし、抗体は月に1回の注射が必要であり、また、莫大な費用がかかることから、その恩恵にあずかれる人は非常に少ないの

ではないかと考えられています。

私たちは大豆蛋白にアミロイドβ蛋白を遺伝子操作で組み込んだ組み替え蛋白を作製し、これを大豆に組み込んで、大豆の種子に大量のアミロイドβ蛋白を作り出すことに成功しました。この大豆蛋白をアルツハイマー病のモデルマウスに経口投与すると、記憶障害の進行が予防され、脳病変の進行も抑えられました。この結果は昨年アルツハイマー病の海外の研究紙に掲載されました。現在は患者さんで臨床試験を始めるための準備を行っています。これが実用化されれば経口投与できる安価で安全なアルツハイマー病の予防薬になると期待しています。

## 老年病研究会のお知らせ（医療従事者向け）

日時：2020年3月6日（金）19：00～  
会場：ホテル1-2-3 前橋マーカー  
特別講演1

「脳卒中と抗凝固療法に関するテーマ」

演者：老年病研究所附属病院 脳神経内科  
副院長 甘利雅邦

特別講演2

「神経内科疾患に関するテーマ（仮）」

演者：徳山医師会病院  
病院長 森松光紀先生

※講演会終了後、情報交換会を予定しております。

### 群馬認知症画像診断講演会

日時：2020年3月11日（水）  
19:00～21:00

場所：老年病研究所附属病院  
新館6階 講堂

【特別講演①】

「群馬県における脳血流 IMP-SPECT/DaT の  
使用経験」

老年病研究所附属病院 認知症研究センター  
センター長 東海林 幹夫

【特別講演②】

「認知症画像診断の最新の知見について」

公益財団法人結核予防会 複十字病院  
認知症疾患医療センター長 飯塚 友道 先生

## 外来栄養指導教室のお知らせ

『麺を食べる時のポイント』～偏りがちな麺類の食事をバランスよく～

日時：令和2年3月6日（金）

12：00～講演会      12：30～食事会

場所：新館6階 講堂

参加ご希望の方は病院受付にお申し込みください。会費 500 円です。

# 陽光苑からのお知らせ

## —新しいサービス—

群馬老人保健センター—陽光苑  
支援相談係長 高橋 真紀

群馬老人保健センター—陽光苑（介護老人保健施設）は、地域のリハビリ施設として、入所された方が、また自宅へ戻れるように、リハビリや生活支援、介護指導や環境整備を行ったり、通所リハビリテーションやショートステイ、訪問リハビリテーションといったサービスを実施し、在宅生活の継続や自立支援に向けて取り組んでおります。

今回、当苑で新しく始まったサービスについて、ご紹介いたします。

### ○認知症専門棟「らいと」

今年1月より認知症専門棟の中に、在宅復帰支援フロア「らいと」がオープンしました。認知症専門棟は、認知症により、「日常生活に支障を来す恐れのある症状又は行動を認め、介護を必要とする方」が入所の対象となっておりますが、その中でも認知症状は、比較的安定されている方から、常に見守りを要す重度の方まで幅広くいらっしゃいます。その方に合った認知症ケアを実践するには、認知症の重症度にあった環境が必要であると考え、居心地の良い場所作り、安心できる空間としてホールの一角に「らいと」が誕生しました。

「らいと」は、比較的認知症状が安

定していて、日常生活の自立度が高い方を対象としており、認知症リハビリテーションや自立支援ケアなどを行なっています。具体的には、リハビリスタッフによるADL訓練や家事動作訓練、学習療法や回想法、脳活レクリエーションなどの認知機能向上プログラムを実施しています。また、従来の認知症専門棟ではなかなか難しかった利用者間の交流や役割作り、趣味活動などを通して、不安を軽減し、楽しみを持ち、安定した気持ちで過ごして頂けるよう支援していきたいと考えております。「らいと」では、こうした取り組みにより、認知症の症状が安定することで、最終的に一人でも多くの方が、自宅へ戻れることを目標に今後も取り組んでいきたいと思っております。



認知症専門棟「らいと」

次ページへ続く

## ○通所リハビリテーション（デイケア） 「短時間通所リハビリテーション」

昨年7月より当苑通所リハビリテーションでは、「リハビリだけ集中して行いたい」、「通常の6～7時間の利用時間では長すぎる」というご要望から、約2～3時間の「短時間通所リハビリテーション」を開始しました。

「短時間通所リハビリテーション」では、利用が始まると、最初にリハビリスタッフがご自宅を訪問し、環境調査を行います。そこで、在宅生活での不安や悩みなどを直接リハビリスタッフが伺い、在宅環境や在宅生活における課題を分析します。それを基に通所リハビリテーション計画書を作成し、利用者様の状態に応じて、医師の指示の下、担当の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が専門的なリハビリテーションを実施しています。また、利用者様が主体的にリハビリテーションに取り組んでいただけるよう、歩行訓練やパワーリハビリテーションなど利用



通所リハビリテーション リハビリスタッフ  
(左よりPT2名、OT、ST)

者様に合わせた自主トレメニューと並行して、ご自宅でも習慣的にリハビリに取り組んで頂ける事を目指し、ご自宅用の自主トレメニューの作成にも力を入れています。

そのほか、福祉用具の選定やケア方法の相談など在宅生活を安心して送れるよう支援しています。また、生活動作の支援が必要な方や体調に不安がある方も、看護・介護スタッフがサポートしておりますので、安心してご利用頂けます。

短時間通所リハビリテーションは、  
午前の部(9:30～12:00頃)、  
午後の部(13:00～15:30頃)で実施。  
送迎も行っております。  
体験利用も可能ですので、是非ご相談  
ください。

お問い合わせ：☎027-253-3317  
(担当相談員 鹿沼・高橋)



花名：フリージア 花言葉：無邪気  
撮影者：松原信子様

## 公益財団法人 老年病研究所附属病院

〒371-0847 群馬県前橋市大友町3-26-8 TEL 027-253-3311 (代表) FAX 027-252-7575 (代表)  
E-mail: info@ronenbyo.or.jp ホームページアドレス <http://www.ronenbyo.or.jp/>

## 地域医療福祉連携室・相談室

TEL 027-253-4108 FAX 027-253-4135